ルーマニアとの今後の交流のあり方を考える
市民懇談会（第３回）

平成 18 年 1 月 31 日（火）
武蔵野総合体育館　視聴覚室

次　　第

１　配布資料説明

２　議事：「これまでの交流の評価について」
　　意見交換

３　その他
　　（１）今後の日程
　　（２）事務局からの事務連絡

2006年度　初級クラス（Beginner1）アンケート結果

♪　アンケート対象者・・・2006年度から日本語学習を始める者

♪　アンケート実施期間・・・2006年1月23日(月）～27日(金)

項目（↓）／参加人数（→）	火曜 5:00-7:00 33名	水曜 3:00-5:00 33名	木曜 5:00-7:00 26名	金曜 3:00-5:00 37名	金曜 5:00-7:00 37名	全クラス合計 166名
1　年齢						
9歳		1				1
13歳	1					1
15歳	3	1	1		5	10
16歳	2	4	1	8	5	20
17歳	5	12		8	4	29
18歳	2	1	1	1	3	8
19歳	1		1	2	2	6
20歳	1	4	1	7	5	18
21歳	6	2	2	6	5	21
22歳	2		2	2	2	8
23歳	1	2	2	1		6
24歳			2		2	4
25歳			3	1		4
26歳	1		3	1	1	6
27歳	2		2		2	6
28歳	1					1
29歳			1			1
30歳	1				1	2
31歳	1	2	2			5
32歳		1				1
38歳		1	1			2
40歳			1			1
42歳	1					1
43歳	1					1
47歳		1				1
55歳	1					1
57歳	1					1
58歳		1				1
＜平均年齢＞	24.5	21.6	25.5	19	16.7	21.4歳

2 何でセンターを知ったか　(複数回答)						合計
学校	2	3			3	8
家族	1	2	2	1	2	8
恋人	1		2		1	4
日本語を勉強している友人	2	4	2	1		9
親戚	1			1		2
友人	17	9	13	22	20	81
以前センターで勉強したことがある	1					1
図書館	3	4	2	3	4	16
メディア（ポスター・ラジオ・TV）	4	2	2	5	1	14
雑誌（Zile si Nopti)	2	4	1	4	8	19
新聞		1	4			5
市役所		1	1			2
インターネット		1	1	1		3

3 **勉強したい理由** (複数回答)

						合計
興味がある	8	7	10	10	17	52
美しい言葉	2	2		2		6
話せるが書けない			2			2
たくさん外国語を知るべきだから	3			2	1	6
日本の歴史に興味	1		1			2
基礎を知りたい	1	1				2
新しい挑戦	3	7	1	4	6	21
文化に興味がある	6	9	9	10	9	43
外国語の勉強が好き	1	2	3	5	3	14
日本の国を知りたい	2	2	2	3	2	11
日本へ行きたい	3	2	2	2	1	10
日本にいたことがある		1				1
異文化体験したい	1		1			2
日本で働きたい	1		1	1		3
東洋の言語に興味	1	1	1	1	1	5
日本語知っている人が少ない		1		1	1	3
ルーマニア語と違う		1		1	1	3
未経験の文化に触れたい	1		2			3
日本へ行く機会があるかもしれない	1					1
日本の変化に興味	1				1	2
日本人がすき	3			1		4
自由な時間を有意義に過ごしたい				1		1
彼氏が参加するから	1					1
日本人と仕事の付き合いがある				1		1
日本の家族（義母・親戚）と話したい		1		1		2

4 **知っている言語** (複数回答)

						合計
英語	33	32	26	37	37	166
フランス語	19	17	12	24	20	92
ドイツ語	9	5	4	7	9	34
スペイン語	7	6	3	4	10	30
ハンガリー語	3	2	4	2	2	13
イタリア語	2	5	3	9	2	21
ラテン語	2					2
オランダ語	1					1
ポルトガル語	1		1			2
トルコ語			1			1
ロシア語					1	1
中国語					1	1

5 **日本の第一印象** (複数回答)

						合計
行きたい国	2	2		1	1	6
成功した国	1			1		2
日の国	1	2	4	5		12
美しい国	1		1	3	3	8
テクノロジー	4	2	3	3	5	17
文化・伝統・習慣・歴史	9	4	6	10	13	42
武道(空手・合気道)	2	3	2	6		13
さむらい	3	2	4	4	4	17
武士道				1		1
数学	1			1		2
人が多い	1			1		2
黒い目	1					1

焼き物	1					1
食べ物（すし･米）／お茶		7	1	1	4	13
秩序				1		1
世界で2番目に強い国	1					1
庭	2					2
漫画	1	1		3		5
名誉	1			1		2
Ｋ１(格闘技)	1					1
建物（お寺など）		1		1	2	4
東京				2	1	3
天国	1					1
将軍	3				4	7
天皇				1	2	3
洪水(長崎)	1					1
中国にある美しい所	1					1
地震	1					1
お茶		4	2			6
忍者		1		1		2
富士山		2				2
赤い（日の丸）				1	1	2
着物		2	1			3
物価高		1				1
別の世界		2		1	1	4
盆栽		1				1
桜			3			3
礼儀正しい		1	1	1	1	4
暖かい人			1			1
色彩豊か			1			1
古い伝統と新しいものの融合			1			1
島国			1			1
新幹線			1			1
指圧			1			1

6 知っている日本語

						合計
全く知らない	20	24	13	18	19	94
少し知っている	10		10	20	9	49
じゃまた						
日本語が少しわかります	2	1	1		1	5
きく	1					1
水	1					1
こんにちは	1					1
さよなら					1	1
さむらい	1					1
将軍	1					1
ありがとう		1	3		7	11
ごめんなさい			1			1
うしろ		1				1
友だち		1				1
あとで		1				1
おだんご		1				1
武蔵		1				1
いただきます		1				1
大丈夫ですか		1				1
つぼ			1			1
もしもし					1	1

ルーマニアからの研修生のその後の状況

２００６．１　日本武蔵野センター調べ

年月日	招聘機関	来日年齢	性別	来日時職業	現　況
96.6.24 ～ 8.22	市 ＭＩＡ	33	男	コンピュータ技師	エンジニア IT の会社所有。旅行代理店を共同経営
〃	〃	24	女	大学生	弘前大学大学院研究生 青森県在住、予定３年
〃	〃	21	女	大学生	エンジニア 木工デザイン会社勤務
97.6.26 ～ 8.20	市 ＭＩＡ	17	男	高校生	ブカレストの旅行代理店勤務
〃	〃	20	女	大学生	カナダ在住
〃	〃	31	男	検査技師	日本在住
98.6.15~ 7.30	市 ＭＩＡ	16	男	高校生	文科省奨学金を受給し、日本に留学中（5 年間）
〃	〃	20	女	大学生	ブカレストの旅行代理店勤務
〃	〃	22	男	コンピュータ事務	法律の学校に通いながら日本大使館勤務
00.　4.30~ 6.18	市民の会（１）	21	男	大学 3 年	文科省奨学金を受給し、大学院に留学 現在日本の会社に勤務
01. 5.3~ 6.19	市民の会（２）	16	女	高校 1 年	ブカレスト大学　日本語・ドイツ語学科に在学中
02.5.1～ 7.4	MIA	34	女	会社員	公証人事務所勤務
〃	市民の会（３）	20	女	大学生	トランシルバニア大学生
〃	MIA	14	女	高校生	ブカレスト大学生　マーケティング学科在学
03. 5.3～ 6.19	市民の会（４）	34	女	会社員	電話会社勤務
03.7.16～ 9.8	市	30	女	職員	日本武蔵野センター職員
04.8.20 ~ 10.12	市民の会（５）	19	男	大学生	トランシルバニア大学生
05.8.1～ 9.8	市民の会（6）	21	女	大学生	ブカレスト大学生（奈良教育大に留学）

＊　他に、日本武蔵野センター日本語教室出身者（女性、20 才)が文科省奨学金で訪日、東京外大日本語専修を経由し現在九州大学商学部に在学中

ルーマニアとの交流の成果をどのように考えているかについて（メモ）

2005.1.31 武蔵野市交流事業課

① もともとは国家レベル（国際協力機構など）で行われる内容の事業だとも思われるが、縁あって自治体レベルで実施して現在にいたっている。日本の外務省、在ルーマニア日本大使館からは、東欧における日本の評価を高めるという戦略的課題に貢献する取組みとして高い評価を受けている。

② 在日ルーマニア大使館からは、ルーマニア国会議員の視察受入れ等を含め、ルーマニア人が日本との接点を求める時の窓口を担う自治体として、武蔵野市と横浜市による友好交流が高く評価されている。市民団体レベルの交流も高く評価されている。

③ 産婦人科病院に洗濯機を贈る活動は、政府間関係の国家プロジェクトでは行き届かないことに着目し、市民の目線により、広範な市民が身近に感じられる活動として取り組まれて大きな成果をあげた。

④ NPO によって寄贈された IT 機器は、日本武蔵野センターの施設を利用して、ブラショフ市役所との連携によりブラショフ市民の IT 活用能力の向上に寄与している。1989 年の民主革命後のルーマニアの発展に対し、市民や NPO レベルの国際協力が継続的に実を結ぶうえで、市との連携･協力関係は有効だった。

⑤ 「日本ルーマニア協会」等の民間交流団体や外務省との連携により、音楽を始めとする文化交流にも寄与しているが、音楽交流の関係者は日本への友好的な気持ちが強く、交流のある武蔵野市での公演を収益とは無関係に望んでいる人も少なくない。

⑥ ブラショフに設置している日本武蔵野センターの来館者数は、年間でのべ 7,000 人を数えており、このように多くのルーマニア人が様々な活動に参加することにより、日本ひいては武蔵野市への理解が促進されている。

⑦ 日本武蔵野センターの日本語教室で学んだ人々は、日本とルーマニアとの交流の中核を担う人材として育っている。教室のレベルが向上し、ルーマニアで開催される日本語能力試験、日本大使館主催のスピーチコンテスト等でも好成績を収め、奨学金を受けられる留学生として来日するまでになっている。留学生として来日できた時には、日本でのルーマニア理解促進等の事業にも積極的に協力している。

⑧ みやこうせい写真展、交流パネル展、講演会等の本市のルーマニアに関する事業により、市民の東欧への国際理解が促進されている。

⑨ 市や NPO 等によるルーマニアとの交流活動への参加を契機に、草の根で日本在住のルーマニア人との交流、支援が続いている。様々な形の市民団等でルーマニアを訪問した人は、現地での貴重な経験により、世界に開かれた地域社会づくりに貢献している。

⑩ このような国際交流は、本市の中での市民同士の交流促進という効果もあり、交流活動を契機にして継続的な市民活動に発展する要素がある。

第３回ルーマニアとの今後の交流のあり方を考える市民懇談会　会議要録

■　日　時：平成 18 年１月 31 日（火）　午後７時～８時 30 分
■　場　所：総合体育館３階　視聴覚室
■　出席者：石光委員・大隅委員・河北委員・竹島委員・原委員・平井委員
横尾委員・頼委員（五十音順）
事務局３名、傍聴者１名

１　配布資料説明

＜事務局説明＞

２　議事：「これまでの交流の評価について」

【委員長】３月末を目処に報告書をまとめたい。今日の懇談会あたりで評価をまとめる方向でいきたいと考えている。これまでのルーマニアとの交流の評価について、前回の意見も思い出しながら進めていきたい。どのようにまとめていくかも含めて、意見をいただきたい。

【委員】今まで 10 年経って、人との交流が続いていること、日本語教室も当初 60～70 名から始まったが、今では応募者 280 名まで広がった。特にルーマニアサイドにおいては、当初の目的を達成したのではないか。これからは武蔵野市の市民にとってルーマニアと交流することの利点を市民にわかりやすく伝える必要があるのではないか。前回の懇談会で、ルーマニアの経済状況から人の行き来が困難であるとあったが、そこまでとはいわないまでも、インターネットを通じて学校間の交流、若い人や若いお母さん達の交流が若い世代の交流が発展していけばいいと思う。

【委員】評価をするにあたっては、切り口を決めていかないとまとまりにくいと思う。いくつか発表したい。まず、１番目として日本語教室についてであるが、95 年に国際交流協会の夏の教室から始まり 10 年間の実績がある。結果として現地の日本大使館の弁論大会に毎年エントリーしていて、良い成績を収めている。これも過去の積み重ね、実績だと思う。教師に関しても、最初は国際交流協会の日本語交流員、そして JICA 職員、今では市から派遣し、より完全になった。クラスに関しても非常に充実してきていると思う。２番目に交流という面がある。10 年以上にわたり、市民団の交流、オーケストラ・合唱団などの招聘や派遣があった。この実績も評価できる。３番目に日本武蔵野センターのアクティビティー（活動）について。メインは日本語教室だが、書道・絵手紙・切り絵・着物の着付けなどいろいろな日本文化紹介をしていた。ホスピスに週１回出向いて、ソロバンや折り紙をやったり日本料理を振舞ったこともある。茶道教室もブカレスト大学の協力を得てやっている。日本文化は奥が深いのでいろいろやっていける。４番目にＰＲ。これは継続的にやっていく必要がある。１回講演会をやったというのではなく、持

続性が必要だと思う。５番目に経費の問題。年間 1,700～1,800 万かかっている。これは日本武蔵野センターの家賃がほとんどを占めるが、昔の図書館の分館に比べるとかなり使いやすくなった。経費の負担については、ブラショフ市の負担をもう少し求めるかどうかは、武蔵野市の財力との違いから考えると、もう少し長い目で見ていかねばならない問題と思う。

【委員】前回、文通の必要性を申し上げた。若い人には、言葉だけ学んでもモチベーションが上がらない。ネットで写真付きの自己紹介、プロフィールを掲載して、日本の学生に見てもらい、個人的に交流してもらう架け橋となる仕組みが必要。ルーマニア人は英語がよくできるので、英語で交流できる。英語が母国語でない東欧圏との交流は意味がある。モチベーションは人と話してみたいことで上がる。話すきっかけ、第１歩としてネット、メール等で交流に役立てればよいと思う。

【委員長】実際には、どのようにやるのか。

【委員】日本武蔵野センターのホームページに（文通希望者の）プロフィールを載せるのはどうか。

【委員】ルーマニアは日本にとってあまり知られていない。互いに知られていない中、少ない予算の中で良くやってきたと思う。しかし、武蔵野市民に対して、これだけいろいろな活動をやっているという広報が十分であったか。もう少し広報があってもいいのではないか。なるべく広がりのある持続的につながっていくものがよい。ＰＣの普及率はあまり高くないが、徐々に広がっていくと思うからメールは良いと思う。そうした個人的なつながりができていくのは良いのではないか。

【委員】若い人は吸収力があるので若い人にターゲットを絞る。若い母親たちに日本の子育てとブラショフの子育ての違いや共通点について交流してもらう。市内の「０１２３」や「あそべえ」でブラショフの紹介をする。小さいうちから情報を受けていればもっと興味を持てるのではないか。学校の教室を離れた場所で多くの言語を学ぶチャンスを与えられないか。

【委員】「あそべえ」とは何か。

【委員】各学校にある、地域子ども館である。子ども達の放課後対策として子ども達の居場所作り、いろんな年齢の子どもの交流場である。いくつかの館に提案するのはどうか。

【委員】ルーマニアから日本に来るのは、経済的な問題だけでなく、ビザがなかなか下りないという問題もある。国際交流協会の研修生招聘制度がなくなった後、ルーマニア人の日本語学習へのモチベーションが下がったので、武蔵野ブラショフ市民の会で研修生を招聘することにした。

　また、武蔵野市の中でルーマニアとの交流を広めたり、関心度を高めるのもなかなか難しい。研修生を招聘する時は、必ず市報にホームステイのお願いをしているが、受け入れ家庭を見つけるのも難しい。今までシンポジウムやルーマニア料理教室など行い、一般の方に知ってもらうようにしているが、いま一つである。また、ルーマニア語講座

もずっとやっている。ブラショフの人が日本を見るのと日本の人がブラショフを見るのでは、温度差を感じる。

「０１２３施設」や「あそべえ」などを利用した若い人たちに広がりを持てるような、興味をもってもらえるようなプログラムを考えていきたい。またルーマニア人とのネットワークを考えている。10 年以上活動を続けてきたので、それなりの広がりはあると思う。

【委員】武蔵野ブラショフ市民の会は独自の活動を行っているのか。

【委員】ＮＧＯなので独立してやっている。国際交流協会だけでなく民間の組織もあった方がいいとの事で設立された。研修生を呼ぶ際には、日本武蔵野センターにもいろいろご協力をいただいている。招聘の予算も独自に組んでいる。

【委員長】これまでのまとめを含めて事務局では交流の評価をどう考えているか。参考までに教えてほしい。

【事務局】まだメモ的なものであるが、議論の参考としていくつかの切り口を申し上げたい。ただ、皆さんの議論が市の評価に引きずられることのないようにお願いしたい。

＜事務局メモ資料説明（別紙）＞

【委員】ルーマニア大使館は、武蔵野市の評価をとても高くしている。Y 市（神奈川県）もルーマニアの都市と交流しているが、評価は武蔵野市の方が高い。

【委員】Y 市もルーマニアと交流しているので、Y 市がうまくいったことや逆にうまくいかなかったことなどは、参考になるのではないかと思う。日本武蔵野センターについては、平成 17 年度の予算を見て、すごく経費がかかっていると感じた。その点が、他の交流、ハバロフスクやラボックと比べてどうなのか。日本武蔵野センターをつくった意義、職員派遣の意義はどうか。予算のかなりの部分は、日本武蔵野センターの家賃と人件費になっている。ルーマニア側の負担も考えるべきではないか。経済的に厳しいのは分かったが、すべて武蔵野市の負担でやっていいものなのか。また、日本武蔵野センターのＰＲについては、もっと拡大すべきである。外務省のＨＰにリンクさせることはできないか。ルーマニアとの交流においては、日本武蔵野センターでの日本語教室が交流の中核であるとわかったが、ハバロフスクやラボックとの交流の中核は何か。

【事務局】予算は、ルーマニアが一番大きい。２番目はハバロフスクである。ハバロフスクとの交流予算は約 1,500 万であり、もともと野鳥交流がきっかけであるが、今は寒帯林保護など環境問題まで広がっている。３番目は、ラボック市との交流で、ジュニア交流団派遣に 500 万弱、ラボック市の中学生招聘に 350 万という内訳である。他には、中国との交流で高校生の派遣に百数十万、韓国との交流で派遣と受入合わせて 400 万くらい支出している。どの事業も中高生の青少年交流が中核となっている。韓国に関しては、大人の市民の派遣や市役所職員の相互派遣も行っている。

【委員】ルーマニア以外では今後につながる青少年交流が主であると感じた。

【委員】ブラショフにセンターがあるというのは非常に特徴的なことだと思う。

【委員】日本武蔵野センター来館者は、年間約 7,000 人で日本や武蔵野市の理解が促進されているということだが、武蔵野市側にも何か成果があるといいのだが。
【委員】ルーマニア側の負担として日本武蔵野センターに派遣されている職員への住居の提供があると聞いたが。
【委員】アパート代、光熱費代、センターの電話代、センターの清掃代はブラショフ市の負担であった。どのくらいかはわからない。
【委員】ブラショフ市側にも自立性をもたせる、自分たちも一緒にやるのだと提案していく必要があるのではないか。
【委員】少年少女合唱団とはなにか。
【委員】カメラータ少女合唱団を招聘した。音楽の文化的水準は高いと思う。
【事務局】1994 年、平成６年のことだ。
【委員】バイオリニストやフルート奏者も来ている。50 名とか大人数ではないが、招聘している。武蔵野の市民交響楽団も派遣された。
【委員】在日ロシア大使館の方から少年少女合唱団の声はすばらしいと聞いた。武蔵野のイベントに合わせて呼んだらどうか。
【委員長】そろそろ評価としてまとめる時期にきていると思う。まとめていきたいが、良い評価とは逆に厳しい意見もあってもいいと思う。その辺について何か意見はないか。
【委員】日本語教室を始めた頃、ブラショフ市役所の職員との意思疎通が難しかったが、現在はどうなのか。
【事務局】今は、現地に派遣されている職員を通じて行っている。
【委員】利益を追求する企業と公益とは違うが、それ以上にルーマニア人と日本人は考え方など違うところがとても多い。しかし、そういうところも相手の国を知ることの一つであると思う。
【委員】以前、日本語教室の運営費がブラショフ市へ送られていた時代には、何に使われているのか不明で疑心暗鬼と感じるところがあった。日本武蔵野センターができ、日本人の常駐ができたことで、お金の流れがクリアーになったのか。
【委員】今は、武蔵野市へ毎月、月報を送っている。
【委員】もともとは武蔵野市の希望でセンターをつくったのか。
【事務局】日本語教室は、視察に来たブラショフの市長が国際交流協会での日本語教室を見て、こうした教室を作ってほしいと言われたという記録がある。センターについての詳細は、手元に資料がない。
【委員】本来であれば、日本武蔵野センターに対する責任は両者で分け合うはずと思う。
【委員】理想としては、日本に愛着のある現地の人間が、センター長や先生を行うような現地化がいいと思う。交流というものはとにかくお金がかかる。何かをすると必ずお金がかかるものである。どちらが負担するかの問題がでてくる。
【委員】ブラショフ市にとって日本武蔵野センターがあるのはどうなのか。

【委員】ブラショフ市は多くの友好都市をもっている。しかし、現地センターがあるのは武蔵野市だけだ。しかし、ブラショフで彼らがどのように評価しているのかわからない。
【委員】日本とルーマニアの国同士の貿易は増えているのか。
【事務局】一般的には急に増えたとか減ったとかいうことはないと思う。
【委員】武蔵野ブラショフ市民の会で行っているルーマニア語講座に来てくれている人も仕事でルーマニアに行くから学びたいという人が最近でてきた。ルーマニア語講座が他にないからということだが、10 年前に比べると広がりがでてきたと感じる。
【委員】センターの運営でも支援というか運営委員会などは必要でないか。
【委員】丸一日中はりついていなければならない仕事がある訳でないので、なんとかやっていた。
【委員】ルーマニアとの経済交流が少ないと思う。
【委員】外資もかなり入ってきているし、ＥＵ加盟も考えると変わってくるのでないか。
【委員】日本の自治体で東欧と交流しているところは少ない。そういう中で武蔵野市がブラショフとこうした交流をしていることは、非常に価値があると思う。外務省にもいい事を行っているということを伝えたい。
【委員】ビザがなかなかおりない話が出たが、最近は武蔵野ブラショフ市民の会の研修生ということならすぐ出るようになった。今まで継続して活動してきたから、継続は力なりと感じている。どうしたらもっと多くの武蔵野市民が我々の活動に来てもらえるのか。ムーバスの掲示板など利用しているが足りない。我々も何かもう少しポジティブに動いて、市にバックアップしてもらいたい。今回こんなに予算がかかっていると初めて知った。
【委員】武蔵野ブラショフ市民の会と市の交流事業課の関係がわからない。どっちが先か。
【委員】市が先に交流を始めた。その後、国際交流協会を補助する形で活動が始まった。一回目の市民団が帰国してきてから市民の会が独立した。国際交流協会から 10 万円の補助金をもらい、招聘事業をしている。
【委員】事務局の意見メモに武蔵野ブラショフ市民の会の言及がないが。
【事務局】９番目の内容にあたる。個別の団体をメモに記載するつもりはなかったので、載せていない。
【委員】９番と 10 番がわかりにくい。９番のＮＰＯの中に武蔵野ブラショフ市民の会も含まれているのか。
【事務局】ＮＰＯの中に武蔵野ブラショフ市民の会も含んでいる。
【委員】ルーマニアとの交流活動への参加とは誰が参加するのか。
【事務局】武蔵野ブラショフ市民の会の会員が活動に参加する場合もあるし、会員でない方が何らかの活動に参加して会員になったり、会員にはならなくても日本とルーマニアとの交流の一翼を担っているなどということだ。
【委員】市民同士のとは武蔵野市民とブラショフ市民ということか。

【事務局】武蔵野市民同士のことである。

【委員】武蔵野ブラショフ市民の会は大変すばらしい活動をしているように感じる。このような活動を交流事業が生み出したとは必ずしも言えないが、大きな意味で交流事業の一翼を担っている。

【委員長】前回より新しい意見が出てきたと思う。それらを踏まえて、次回は、まとめていきたと思う。次回は事務局に作成してもらう案をもとに皆でまとめたい。それをもとに今後のあり方について議論していきたい。

【委員長】それでは第３回懇談会を終了する。次回は２月 28 日（火）、第５回目は３月 14 日（火）に午後７時から８時 30 分の日程で行いたい。